

教育に関する事務の管理及び執行の状況の

点検及び評価の結果報告書

【令和4年度実績】

令和5年 作成

い す み 市 教 育 委 員 会

I 点検評価の実施概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部が改正され、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

いすみ市教育委員会では、「教育施策」に添って効果的な教育行政の推進に資するため、令和 4 年度教育施策の重点施策について教育委員会及び外部評価員による点検・評価を実施し、報告書を作成いたしました。

点検・評価の具体的な項目や指標、議会への報告や公表の方法については、特に国が基準を定めず、各教育委員会が実状に応じて決定するとされています。

II 評価の基準

1 評価

以下の「十分に達成」、「ほぼ達成」、「達成不十分」のいずれか。

十分に達成 計画(修正計画)どおりに取り組み、十分に達成できた。

ほぼ達成 コロナ禍等により十分ではないが、おおむね達成できた。

達成不十分 コロナ禍その他の事情により、取組が不十分であった。

2 評価の視点、今後の方向性について

以下の視点などを考慮し、「取組の評価」欄及び「今後の方向性」欄に御記入願います。

- ・ 必要性 教育委員会が事業を実施する必要があるか。
- ・ 妥当性 目的や対象が事務事業の現状からみて妥当か。
- ・ 有効性 事業の効果は十分見込まれるか。
- ・ 効率性 目的達成に向けての事業手法は効率的か。
- ・ 優先性 事務事業の優先度の正当性は十分あるか。

Ⅲ 令和4年度 事務事業点検・評価一覧

番号	所属	項 目 名	外部評価
			成果・評価
I-1	さめ細かな指導と教育機会や 教育システムの多様化の推進	学校経営基盤の確立	ほぼ達成
I-2		「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた カリキュラムマネジメントの確立	ほぼ達成
I-3		学習指導の改善と質的向上	ほぼ達成
I-4		道徳教育の充実	ほぼ達成
I-5		グローバル化・情報化に対応した教育の推進	ほぼ達成
I-6		健康、安全・防災教育の充実と体力の向上	ほぼ達成
I-7		生徒指導・教育相談の充実と 人権・平和教育の推進	ほぼ達成
I-8		特別支援教育の推進	ほぼ達成
Ⅱ-1	教職員としての 資質・能力の向上と 教育条件の整備と充実	教職員の適正配置と資質・能力の向上 教職員研修の充実 教職員の健康管理と福利厚生 of 充実	ほぼ達成
Ⅱ-2		施設設備の充実と教育条件の整備	ほぼ達成
Ⅲ-1	うるおいと生きがいのある 地域づくりの推進	生涯学習推進体制の整備・充実	ほぼ達成
Ⅲ-2		生涯学習機会の充実	ほぼ達成
Ⅲ-3		家庭・地域の教育力向上と活用	ほぼ達成
Ⅲ-4		生涯スポーツの振興と健康づくりの推進	ほぼ達成
Ⅲ-5		文化・芸術活動の充実	ほぼ達成
Ⅲ-6		文化財の保護・活用の推進	ほぼ達成

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	I きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課
	1 学校経営基盤の確立	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・組織マネジメントを生かした効率的で機動力のある学校運営、学校評価及び学校評議員を活用した学校づくりを行い、チームとしての学校の実現を図る。 ・校内研修の活性化を通して、教職員の資質能力の開発・向上を図り、活力ある教育活動の推進を図る。 ・業務改善の意識のもと、出勤状況の把握・分析、業務の見直し及び効率化の促進を図る。		
現状と課題	・学校評価結果や学校評議員の評価を活用し、組織が一体となって学校運営に取り組んでいる。 ・校内研修では、教職員の資質の向上につながり、子どもたちに還元できる充実した内容に努めている。 ・在校等時間等の記録により、出勤状況の把握・業務の見直し等が図れるように取り組んでいる。		
求める成果	・校長は教職員一人一人の職務上の役割を明確にし、教職員一人一人の能力や資質の向上を図る。 ・校長は人事評価制度を活用し、教職員の特性に応じた能力開発・人材育成を行う。 ・千葉県目標である「時間外在校等時間」が月45時間以内、年間360時間以内を達成する。 ・令和5年度は、市内7小学校、2中学校に教員業務支援員を配置し、教職員の業務の軽減を図り、児童生徒に向き合う時間、授業準備する時間を確保する。		
主な取組	機動力のある組織づくりの促進	指導主事定期訪問を各校月1～2回、事務所訪問年1回を実施し、教員に指導したことについて管理職と情報共有した。	
	教職員の能力開発の推進	指導主事による学校訪問を実施し、管理職と指導内容を共有し、学校内外で共通した視点で指導を行い、教員の指導力の向上に努めた。	
	業務の効率化の推進	毎月勤務時間の報告を課し、勤務時間時間の見える化を行い、個々の勤務時間を意識させ、業務改善の意欲を高めた。	

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	月1～2回の「指導主事定期訪問」を確実にしながら、校長が教職員一人一人の職務上の役割を明確にしたこと。また、その能力や資質の向上を図るため、「ICT機器を活用した授業づくり」や「業務改善等」を行い、能力開発に効果がみられたことは、大きな成果と言える。 業務の効率化の推進において、「在校時間等の記録」「出退勤記録の把握」等により、教職員の意識化を図り、時間外業務・休日出勤等の時間の削減がみられたことは、働き方改革の面から、高く評価できる。 目標申告や人事評価制度を活用し、学校と教育委員会との連携を密にして教職員の能力開発や人材育成に努めている。特に、ニーズに応じた様々な方面での人材の確保は評価に値する。
今後の方向性	教職員の能力開発においては、今後もICT活用研修に努めてほしい。あわせて、児童生徒の1人1台のタブレット端末の活用、さらには家庭学習での活用等に努めてほしい。 また、「統合型校務支援システムの活用」については、さらなる具体化を図りながら、教職員一人一人がその成果を享受できるよう、実施していただきたい。 今後も、教職員等が「学校＝魅力ある職場」であることを体感できるよう、教職員の多忙化防止のため、時代に応じた研修等を精選し実施していただきたい。 第一義が児童生徒と向き合う時間の確保に努めていただきたい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	1 きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課
	2 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたカリキュラムマネジメントの確立	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・教育活動の質的向上を図るため、カリキュラム・マネジメントの確立に努める。 ・新しい時代に必要となる資質・能力を明確にし、保小中高連携による円滑な接続を踏まえた教育課程の編成を工夫する。 ・すべての教育活動を通じた社会的・職業的自立に向けて基盤となるキャリア教育及び福祉教育を推進する。	
現状と課題	・コロナウイルス感染症予防対策のため、様々な教育活動の見直しが求められる。 ・小学校では新学習指導要領の完全実施の年である。キャリア教育の評価の元になる「キャリアパスポート」の作成をすすめる。 ※キャリアパスポート：児童生徒が自らの学習状況や行動を振り返って各学年で毎年作成し、自身の成長を自己評価できるようにしたもの。	
求める成果	・臨時校長会を開催し、コロナウイルス感染症予防対策の共通理解を図る。 ・国のコロナ対策交付金を活用して、児童生徒の健康・安全に係る様々な備品等を整備する。 ・福祉教育においては、福祉課、健康高齢者支援課等の他課と連携し取り組む。	
主な取組	カリキュラム・マネジメントの確立	コロナウイルス感染症拡大を予防し、児童生徒の健康・安全を最優先に考えつつ、工夫した教育活動を展開できるよう指導した。
	保小中高連携	小中学校間で児童の情報共有を行った。市情報教育重点校の公開授業を実施し相互参観の機会をつくった。
	福祉教育	心のバリアフリー教育推進校の実践を市内の学校に紹介し、各校での取組みを啓発した。
	キャリア教育	児童生徒が「キャリアパスポート」に記入した内容について、家庭に情報提供できるよう各校の担当者に働きかけた。

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	コロナ禍が続く中、適切な教育活動を展開するためのカリキュラムマネジメントの確立に務めていた。市の指導主事等の定期訪問や相互参観等、保小中高連携に努めていたことが窺えた。実施方法を工夫したキャリア教育や福祉教育の実践が見られ、評価したい。 保小中高相互参観や体験活動は、非常に有効である。 コロナウイルス感染症予防対策として、適切且つタイムリーに最新の機器導入等の様子が伺えた。 今後、「キャリアパスポート」の作成及び活用、家庭への情報提供・連携をさらに進めていくことが大切と考える。
今後の方向性	小一プロブレムに対応のための保育所(園)年長児と小学校低学年との交流や、保育所参観、体験入学等は重要である。「小学6年生の中学校体験入学」と併せ、さらに強化していただきたい。 今後も学校におけるキャリア発達を促す教育、キャリア形成を意識した教育が重要である。そのためにも「キャリアパスポート」の作成及び活用、家庭への情報提供・連携を進めていくことが大切と考える。 小規模校から複数学級規模の学校へ児童生徒が進学する時点で抱く感情のより深い理解をお願いしたい。そのためにも、児童生徒個々へ接することを期待したい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	I きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課
	3 学習指導の改善と質的向上	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、「授業づくりコーディネーター」の活用、市指導主事による月に1～2回、学校定期訪問を行う。 ・指導目標の明確化と指導方法の工夫改善及び指導と評価の一体化のため、「ちばっ子の学び変革」推進事業指定校(大原小)を中心に研究の推進、成果の普及を図る。 ・基礎的な知識・技能の確実な習得のために、「たけのこ塾」の活用により、個別指導を充実させる。 ・家庭学習の習慣化のために、「ちばっ子チャレンジ100」、「学びの突破口ガイド」、「家庭学習のすすめ」サイト等、eライブラリーの活用等を活用する。	
現状と課題	・コロナウイルス感染症予防対策のため、中断していた「たけのこ塾」を3年ぶりに実施する。これまでのたけのこ塾ではなく、実効性のあるたけのこ塾を運営していきたい。 ・家庭学習の習慣化のために、本年度末に配備予定の一人一台の情報端末を家庭でも活用できるよう、条件整備をしていく。	
求める成果	・市指導主事3名が分担し、同一校を定期的に訪問することで、若手教員のスキルアップを継続して行っていく。 ・「ちばっ子の学び変革」推進事業指定校として、本年度は大原小を中心に小学校の研究の推進、成果の普及を図る。 ・教育事務所指導主事による要請訪問だけでなく、「授業づくりコーディネーター」の積極的な活用を目指す。	
主な取組	市指導主事による学校定期訪問	若手教員以外の授業参観も実施し、指導した。指導内容は管理職と共通理解し、教職員の資質・能力の向上に管理職と同一歩調で取り組んだ。
	児童生徒の資質・能力を向上させる授業改善	市研究指定校の公開授業、研究成果を各校に情報提供し、各校での実践にいかすことができた。
	ICT機器、ICT支援員の活用	ICT支援員を各学校に派遣し、教職員のICT機器活用能力の向上を図ることで、児童生徒の学習意欲の向上につながった。
	たけのこ塾の実施	たけのこ塾を年間通して実施した。保護者、児童生徒、講師の評価はおおむね良好であった。

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	3年ぶりの「たけのこ塾」の実施に感謝したい。熱心な取り組みが感じられた。市内統一の学年に応じた学習問題や発展問題の作成等評価したい。児童・保護者にとって大きな朗報と言える。 3名の市指導主事による、定期的な学校訪問により、若手教員のスキルアップができたことは、評価できる。 端末使用についてのルールづくりがなされたことは進歩である。さらに継続・拡大して欲しい。 県推進事業において、思考表現のツールとしてのノート活用「ふきだし」を取り入れているのも、児童にとって楽しい活動となるのではないかな。
今後の方向性	市指導主事による各校の定期訪問の実施は、若手教員のスキルアップのために非常に有効であり、継続して欲しい。また、若手教員以外にも拡大し、学習指導・生徒指導等の向上に努めて欲しい。 一人一台の情報端末の効果的活用に対する積極的な取組が必要である。児童生徒が家庭でも有効活用できるような条件整備を、デジタル教科書の活用と併せて、積極的に進めていただきたい。 さらなる有意義なたけのこ塾にするために、自校の児童生徒の学力向上のための取り組みであることを、職員及び参加児童へ理解させていただきたい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	I きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課
	4 道徳教育の充実	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・道徳教育推進教師の役割を明確にし、「考え、議論する道徳」を意識した指導方法や評価の工夫・改善に努める。 ・「道徳科」の推進として、全内容項目の計画的・発展的な指導、道徳教育映像教材の活用、授業公開等に努める。	
現状と課題	・目的を明確にした話し合い活動や、児童生徒の実態と道徳的諸価値の理解を踏まえた「議論」の部分については工夫改善の余地がある。 ・教科としての道徳という意識が教職員の中に浸透している。	
求める成果	・目的を明確にした話し合い活動を充実させ、議論を活発化することで、思考を深める。 ・道徳教育推進教師を中心とした相互授業参観に努めることで、自己の生き方についての考えを深める指導方法の工夫改善を図る。 ・道徳科の特性を踏まえた指導と評価の一体化を図る。	
主な取組	定期訪問における授業への指導	年間計10回程度実施
	千葉県教育委員会主催の研修会への参加奨励	オンラインによる道徳教育推進教師の研修会参加
	千葉県教育委員会作成の映像教材の活用促進	年間指導計画の位置付け

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	各学校において様々な工夫がなされ、十分な間隔を設けられるよう広い会場の場を設けた実践が見られた。また、リモートやDVDを活用した取組みがなされるなど学校全体としての意識の高揚が窺えた。保護者の参加や参観等が良い取り組みであった。児童生徒の記録の積み重ねによる評価が定着しつつあることも成果である。 心の教育を目的とした集会等の取り組みも評価したい。 平和教育については、特に広島への中学校代表派遣に伴う千羽鶴を全校で取り組む活動などは今の時代だからこそ素晴らしいと評価する。
今後の方向性	「考え、議論する道徳」の意識化のためにも、道徳の時間における「発問」の重要性を今一度、各学校で再確認して欲しい。 今後、道徳教育推進教師を中心に、さらに「道徳科」の在り方、課題等について、相互参観するなどして、より深化させて欲しい。 話し合い活動や議論については、望ましい児童生徒同士の関係が求められるので、日常の児童生徒指導と合わせて取り組まれない。 今後さらに、つながる仲間づくりの場である「学級」の価値を大切にし、授業公開も含め、地域・保護者とも一体となった授業づくりに取り組んで欲しい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	I きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課課
	5 グローバル化・情報化に対応した教育の推進	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・小中連携による学びの接続を意識した授業改善と教師の指導力向上(外国語指導員の派遣) ・中学生海外交流の推進(大原中ダルース市訪問団受入、国吉・岬中合同ウォパン中派遣・受入) ・ICT教育の推進(タブレット型PC等の活用促進)情報モラルの教育の推進 ・授業支援ソフト活用研修会の実施、校内研修会の充実(研修後)		
現状と課題	・外国語指導員の派遣を毎月行っている。(国吉中、岬中は行っていない) ・中学生海外交流はコロナウィルス感染症の沈静化が確認できるまで中止となっている。 ・ICT機器の活用を図るため、太東小、大原中学校を情報教育推進校に指定し研究内容の啓発を行う。		
求める成果	・中1ギャップによる英語授業を苦手とする生徒を減らしていきたい。 ・外国語指導員に小学校外国語授業と中学校英語科が求めているものをマッチングさせる。(事例の紹介) ・グローバル社会で生きる力の育成。 ・ICT機器を活用した授業の実施。(持ち帰りを想定して) ・不登校児童生徒との遠隔授業の構築。(オンライン授業、オンデマンド授業を想定)		
主な取組	外国語指導員派遣	各校9回～18回の派遣を実施。指導員からALTと指導者に助言を行った。	
	海外交流	イングリッシュキャンプの開催。	
	ICT機器の整備	ICT機器の整備完了。IDとパスワードの割り振りを実施。	
	学習支援ソフトの研修会	ICT支援員のコーディネートにより、学習eポータルやCBTについての研修等を実施することができた。 ※CBT: Computer Based Testing コンピューターを使った試験方式	

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	外国語指導員と5名のALT・指導者との連携による取り組みは、大いに評価できる。夏季休業中に実施されたイングリッシュシャワーキャンプはEテレに匹敵するほどの内容であり大変評価している。 ICT活用のための整備への取り組みに対し大いに評価できる。 毎年指導力のあるALTが採用され大変評価している。また、関係の各担当のご努力にも敬意を表する。 コロナ禍の折、リモート等での海外との交流は意義深い。学校や家庭でのオンライン学習の活用も始まったとのこと、各種資格試験も含め、今後の充実を期待したい。 英検3級相当の生徒の率が向上したことは、大いに評価できる。
今後の方向性	今後、ALT等も交え、小中学校同士の交流や、授業改善に努めてもらいたい。 また、海外交流の代替事業「イングリッシュ キャンプ」の取組の工夫も良い。限られた条件の中で、今、できる最上のことに取り組んでいただきたい。 3中学校において、地域人材の活用(英検対策)がなされたことは、とても良いことで、この成果を今後は小学校にも伝え、広めていただきたい。 「情報教育研究重点校」2校の成果を広めながら、家庭での活用も含めたICT教育を推進していった欲しい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	I きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課課
	6 健康、安全・防災教育の充実と体力の向上	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育成。 ・児童生徒の健康づくりの推進(特に個に応じた体力向上)による望ましい生活習慣の形成。(学校保健委員会の活用) ・食に関する指導の充実(食育全体計画の作成・見直し、地域食材の活用)、交通安全指導・防犯教育の充実。 ・学校防災計画の見直しと避難所マニュアルの作成、家庭、地域及び市危機管理課と連携した災害に強い学校づくり。(津波対策訓練の充実) ・「自分の命は自分で守る」防災意識の定着。(毎月5日「市民防災の日」「防災カルタ」の活用)	
現状と課題	・オリパラ教育推進校に大原中と太東小を指定し、オリパラに対する意識の高揚を育んでいる。 ・学校保健担当者会議を実施し、コロナ感染予防対策と貧困家庭対策(ナプキン)について話し合った。 ・交通安全指導を実施し、登校時の安全確認を行った。	
求める成果	・生涯スポーツの振興と健康づくりの推進。 ・望ましい生活習慣を形成し、生活習慣病について意識を高める。 ・防災意識の定着をはかり、自分の命は自分で守る気持ちを育てる。 ・交通安全の意識を高め、市内での小中学生事故ゼロをめざす。	
主な取組	オリパラ教育	教育講演会(長者小)、サーフィン教室(太東小)の実施。
	学校保健担当者会議	コロナ感染予防対策、貧困家庭へのアプローチをした。
	交通安全指導	登校時の指導 交通安全教室の実施。
	防災意識の定着	校内防災カルタ大会の実施。

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	サーフィン教室等の取組など地域の特性を活かしたオリパラ教育で、児童生徒の地域に関する興味関心を高められたことは、大いに評価できる。 防災マップの見直しと、通学路の安全確認が実施できたのは非常によい。危険箇所については速やかに対応いただきたい。 各機関と連携した防災教育の実践は、防災意識の定着が図られる取り組みである。
今後の方向性	教育講演会やサーフィン教室等の取組は、大いに評価できる。運動やスポーツを通じて、生涯にわたって心身の健康を保持増進することに繋がるという意識の更なる高揚を図りたい。 登下校時の歩行や自転車通学路の定期的な見回り安全確保に常時努めたい。 今後も、家庭・地域及び危機管理課と連携した「災害に強い学校づくり」を進めていただきたい。 また、可能ならば、防災に関するアプリやソフトなどの活用も、検討していただきたい。衛生面に関しての個々の意識を保ち、習慣化が徹底されるよう継続を図りたい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	I きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課
	7 生徒指導・教育相談の充実と人権・平和教育の推進	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・暴力行為・いじめ等の問題行動や不登校への組織的な生徒指導体制の構築・教育相談活動の推進，スクールカウンセラーの活用に努める。 ・「県・市いじめ防止対策推進条例」及び「基本方針」に則り，ネット上の問題を含むいじめ防止対策を組織的・計画的に一層推進する。 ・一人一人の個性や能力を生かした集団づくりと自他の生命を大切にする心の育成，郷土愛の涵養に努める。 ・保育所等－小学校－中学校の連携強化に基づく教育相談の充実を図る。 ・学校人権教育推進委員会の充実，人権意識を高める指導方法の創意工夫，広島平和記念式典への参加を図る。		
現状と課題	・全ての学校にスクールカウンセラーが配置され，スクールソーシャルワーカーや関係機関と幅広く連携を図り，ケース会議や教育相談ネットワークを持って迅速に対応することができている。 ・保育所への巡回相談に，各小学校職員の積極的な参加を促す。 ・広島平和記念式典派遣事業により，命の尊厳や平和の尊さを学ぶ平和教育の推進を図っている。		
求める成果	・組織的な取組をさらに充実させることにより，暴力行為やいじめの深刻化を未然に防ぐ。 ・情報モラル教育の充実を図り，ネット上のいじめを防止する。 ・郷土学習の充実を図り，生まれ育った地域への誇りを育むことで，自己肯定感を高める。 ・保育所等－小学校－中学校の交流機会や関係機関とのつながりを持ち，連携の強化を図る。 ・今日的な課題についての学習を取り入れ，人権意識を高める。		
主な取組	諸機関との連携によるケース会議	・LGBTやコロナ禍における差別についての学習を取り入れ、人権意識を高める。	
	保育所への巡回相談	ほぼ全ての小学校職員が参加	
	平和教育の推進	広島平和記念式典派遣事業の実施	

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	全校にスクールカウンセラーが配置されたことは評価できる。また、スクールソーシャルワーカーや関係機関と幅広く連携を図り、ケース会議や教育相談ネットワークを持って迅速な対応がなされていることも高く評価できる。「ケース会議」を適時実施し、児童生徒や家庭への適切な支援を行い、いじめへの早期対応や深刻化を防げたことは、高く評価できる。 保育所・小学校の連携の面からも、巡回相談を実施できたことはよかった。さらに小学校職員への参加を働きかけていただきたい。 中学校の制服に選択肢を取り入れたことも評価できる。
今後の方向性	今後も、「ケース会議」を多く実施し、適切な支援を行い、いじめの深刻化を防いでいただきたい。また、必要に応じて、他機関も交えた「拡大ケース会議」の実施も検討して欲しい。 郷土学習や、保育所・小学校の巡回相談、LGBT等については、生涯学習課や子育て支援課、福祉課等の関係機関とも、密接に連携し取り組んで欲しい。 ICT活用が導入されていく今後、情報モラル教育を引き続き強化していく必要がある。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	I きめ細やかな指導と教育機会や教育システムの多様化の推進	担当課	学校教育課
	8 特別支援教育の推進	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じた合理的配慮の提供による特別支援教育の推進及び支援体制の整備に努める。 ・インクルーシブ教育システムの推進に努める。 ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づく指導・支援の充実、特別支援教育支援員の増員を図る。		
現状と課題	・夷隅地区特別支援連携協議会を軸とした、支援体制が確立している。 ・夷隅特別支援学校との連携が十分に図られている。 ・特別支援教育支援員の増員を図るとともに、研修会を通して、支援員のスキルアップを図っている。		
求める成果	・保育所等、各学校の要請に応じた巡回相談により、適切で速やかな個への支援を図る。 ・個に応じた支援を充実させることで、一人ひとりが学校を楽しみ、能力を伸ばすことのできる環境を作る。 ・インクルーシブ教育の実現に向け、個の特性を認め受け入れる心情を育む。		
主な取組	巡回相談等	年間15回	
	特別支援教育支援員	定期訪問を通して支援員の支援状況を把握	
	インクルーシブ教育	小学校と特別支援学校の交流を実施	

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	個に応じた適切な支援・指導の在り方を学びながら、環境整備を図れたことは高く評価できる。また、支援員を配置した丁寧な対応により、児童生徒一人ひとりが安心感を持って学校生活を送ることができたことも高く評価できる。 夷隅特別支援学校や、特別支援学級の体験入学の計画や相談ができたことは、評価できる。 県立特別支援学校へ、教職員も同行し情報共有できたことすれば、保護者からの信頼もさらに高まるものとする。
今後の方向性	保育所等、各学校の要請に応じた巡回相談、支援員の配置により、今後さらに、適切で速やかな個への支援を図っていただきたい。 情報端末の活用により、個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づく指導・支援の更なる充実を図っていただきたい。 夷隅特別支援学校との地域交流と共に、県内の他の特別支援学校の『センター的機能の活用』等も合わせ、インクルーシブ教育の実現を図っていただきたい。 子育て支援課との協力や情報共有は、今後もさらに充実させていって欲しい。

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅱ 教職員としての資質・能力の向上と教育条件の整備と充実	担当課	学校教育課課
	1 教職員の適正配置と資質・能力の向上 教職員研修の充実 教職員の健康管理と福利厚生	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・学校活性化をめざす教職員の適正配置、人事評価制度の活用、校内モラルアップ委員会の充実 ・研修履歴システム「アストラ」と連携した研修の充実 ・インクルーシブ教育システムの推進(交流及び共同学習の充実)	
現状と課題	・信頼される教職員の育成をめざし、モラルアップ委員会や不祥事根絶研修を開催 ・研修履歴システム運用1年目の課題を総合教育センターへ通知し、よりよいシステムの構築へ繋げる ・インクルーシブ教育の推進に向け、各学校で交流や共同学習を計画	
求める成果	・モラルアップ委員会や不祥事根絶研修会の時間を各学校が適宜設定し、いすみ市から不祥事を出さない。 ・研修履歴システムを活用し、研修参加を促し自己研鑽に繋げる。受講忘れを無くす。 ・インクルーシブの視点から教室環境を変えたり、児童生徒の個別の指導計画、支援計画の作成を行う。	
主な取組	不祥事案件の周知	教育事務所から通知される教職員の不祥事案件を通知し、研修等で共通理解を図り当事者意識につなげる。
	不祥事根絶研修への参加	管理職を中心に研修動画を視聴(全ての教職員も視聴可能) 定期的な不祥事根絶に向けたチェックシートの実施
	若手教員育成研修の開催	2市2町共同で授業力の向上や児童生徒理解に向けた若手教員育成研修の計画(出前あすなろ塾)
	指導主事による定期訪問	指導主事が定期訪問を行い、指導方法や教室環境等について指導する。

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	初任者指導教員の方々が適正に配置されており、教職員の資質能力の向上や研修の充実が図れており評価できる。市指導主事の定期訪問は、大変有意義な取り組みである。SS等の配置は、教職員の多忙化解消の一助である。若手教員育成の為に様々な取り組みを積極的に取り入れている姿勢に感銘を受ける。 不祥事根絶研修会の動画の活用を、全職員で視聴できたことは、非常に有効であると考えます。 ※SS:スクールサポートスタッフ。
今後の方向性	今後も、教職員による不祥事ゼロを目指し、不祥事根絶研修等を継続して取り組んで欲しい。 定期訪問が実施できたことは大いに評価したい。 市として登録できた研修履歴システム「アストラ」の運用及び活用については、各学校と連携し、積極的に有効活用して欲しい。 校長のリーダーシップのもと、常に教職員の資質能力の向上の場としての意識を持ち、教育条件の整備と充実に努めたい。教職員の健康管理と福利厚生

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅱ 教職員としての資質・能力の向上と教育条件の整備と充実	担当課	学校教育課
	2 施設設備の充実と教育条件の整備	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・学校施設及び設備(以下、「施設等」)の適切な維持管理及び計画的な改修等の安全・安心・快適な環境の整備を図る。	
現状と課題	・夷隅小学校の保護者(送迎)、教職員の駐車場が不足しており、またスクールバスも使用することから、駐車場の確保が求められている。 ・東海小学校屋内運動場のバスケットゴール(非構造部材)が耐震調査で専用梁未設置を指摘されており、児童の安全性の確保が求められている。 ・各学校の設備、建具及び屋外教育環境施設等の老朽化により、不具合箇所の改善が求められている。	
求める成果	・児童生徒の学習や生活の場である学校施設等を、安全・安心で快適に利用できるよう維持管理に必要な保守点検・修繕・改修等の環境整備に努める。 ・公共施設個別施設計画との整合性を取りながら整備し、施設の安全性の確保を図り適正な管理に努める。	
主な取組	取組内容	活動指標
	施設等の整備	東海小学校屋内運動場非構造部材耐震対策工事(5月～9月)
		夷隅小学校駐車場整備工事(6月～10月)
		大原中学校校舎棟屋上シート防水改修工事(10月～3月)
		小中学校屋内運動場照明器具改修工事(10月～3月)
		太東小学校特別教室棟照明器具改修工事(11月～3月)

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	市スクールバスを活用した外部施設での水泳指導の取り組みは評価している。 教育界のニーズ(大型提示装置や通信ネットワーク等)に応じた対応を評価する。施設整備への取り組みは、児童生徒の教育環境充実必須事項なので、全力で取り組んでいただきたい。 また、遊具の点検において、危険性の高い遊具の全撤去を行ったことは、大変重要であり、評価できる。
今後の方向性	老朽化した施設等の改修や点検等は、差し迫った喫緊の課題である。緊急性を要する修繕等は速やかに行い、児童生徒の安全確保に努めて欲しい。 施設・遊具等については、市内のどこの学校でも同じ教育が受けられるよう計画的に改修に取り組んでいただきたい。また、突発的な事例も想定し、児童生徒の安全確保に一層努めていただきたい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅲ うるおいと生きがいのある地域づくりの推進	担当課	生涯学習課	
	1 生涯学習推進体制の整備・充実	成果・評価	ほぼ達成	

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	- 生涯学習推進に関する各種会議の充実 社会教育委員会、青少年問題協議会、公民館運営審議会、文化財審議委員会、郷土資料館運営協議会を開催し、事業推進に伴う課題等について協議する。 - 生涯学習情報の収集と提供の充実 市のホームページ、「広報いすみ」、「レッツトライ」を活用する。千葉県生涯学習情報提供システム「ちばりすネット」の活用を図る。 - 広報・啓発活動 「広報いすみ」や市のホームページにて事業等の啓発活動を行う。 - 生涯学習ボランティア活動の充実 生涯学習推進ボランティアの活用を図る。			
現状と課題	各種会議を開催し、生涯学習推進体制の整備・充実について協議している。新型コロナウイルス感染予防対策により、少しずつ生涯学習機会を再開しつつあるが、以前の状況に戻すまでに時間を要している。 生涯学習課、公民館等で生涯学習に係る情報提供・啓発・相談を実施している。新型コロナウイルス感染予防対策により、文化芸術、スポーツ団体の活動が再開しつつあるが、計画通りにできない等の相談に苦慮している。 生涯学習ボランティアとの協力は重要と考え、募集・登録を引き続き行う。			
求める成果	市民の生涯学習ニーズは一段と多様化しており、各世代が生きがいを持って学ぶことができる学習機会の拡充を図る。コロナ禍においても安心安全な活動ができるよう生涯学習推進体制を確立する。 文化芸術、スポーツ団体に対し、コロナ禍での活動についてアドバイスや活動再開に向けた支援を行う。 生涯学習ニーズの高まりの中で、多彩な知識や技能を持ち市民の生涯学習を支えるボランティア指導者を養成し、活動を充実させる。			
主な取組	社会教育委員会	社会教育推進のため社会教育行政の課題、方針、方法等を審議する。 年3回、委員12名		
	公民館運営審議会	公民館事業計画、文化団体の認定等について協議する。 年2回、委員12名		
	文化財審議委員会	有形・無形文化財の調査・審議を行い、市文化財の保護・保全及び文化の振興に資する。 年1回、委員11名		
	青少年問題協議会	青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立、適切な実施を期するため、年1回、委員17名		
	広報・啓発活動の推進	市のホームページ、「広報いすみ」、「レッツトライ」を活用し、学習情報の提供・案内。千葉県生涯学習情報提供システム「ちばりすネット」を活用した相談体制の整備。		
	生涯学習ボランティア活動	生涯学習推進のため、ボランティアの活用を検討。		

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	生涯学習推進の為に関係機関での協議内容については、時代のニーズに応じた内容である。コロナ禍での開催ということで限られた活動や行事であったが、今後も工夫しながら実施されたい。実施内容等の広報・啓発活動としての方法は、大いに評価できる。 人材を活用した自然体験等の取り組みなどいろいろ制限のある中ではあったが、有意義な内容が感じられた。 岬公民館のリニューアルオープンは大変評価したい。特に図書室が入り口正面に配置され利用しやすさが強調されている。利用手続きも簡便である。
今後の方向性	ホームページや「レッツトライ」等の活用に加え、今後「SNSの活用も検討」とあり、これらにはおおいに期待したい。 今後コロナ感染拡大が終息を迎え、人々の生活が以前のような状態を取り戻したとしても、今回の経験をもとにした対応にも努める必要がある。ホームページに関しては、土日の更新も配慮いただきたい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅲ うるおいと生きがいのある地域づくりの推進	担当課	生涯学習課	
	2 生涯学習機会の充実	成果・評価		ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・体験活動の推進 社会性、自主性、協調性等を養い、生きる力を育むため、就学前幼児・園児を対象に交流や自然体験を行う。 ・社会人権教育の推進・成人教育の充実 社会人権教育推進上の諸問題について関係団体へ研修参加を促し、人権教育の充実を図る。各教育機関・社会教育関係団体等に人権啓発視聴覚教材目録を配布し、利用促進を図る。新成人の社会人としての自覚を養うため、二十歳のつどい(旧成人式)を開催し、祝い励ます。 ・いすみ市・夷隅郡視聴覚センター事業 各種視聴覚教材・機器の整備・充実に努め、視聴覚メディアの利用推進を図る。 ・公民館事業の充実、生涯学習情報の提供拡充 市民の学習ニーズに対応し、子どもから高齢者まで各年代層に応じた学習機会の提供と充実を図る。社会教育団体の育成・連携を推進し、文化・スポーツレクリエーションの振興を図ると共に、市民の交流を深め、収集した学習情報を提供し、市民の学習を支援する。 ・図書室機能の整備・拡充と読書活動の推進 読書活動の普及及び定着化を図るため、県立図書館との連携を図る。情報システムと書誌検索データベース機能を有効に活用して、市民の利便性を高める。いすみ市子どもの読書活動推進計画(令和3年4月策定)に基づき、保育所・小中学校の読書活動推進を図る。また、ブックスタート事業とともに、新たにセカンドブックスタート事業を実施する。 ・岬公民館の整備・拡充、 8月1日開館に向けて準備を進める
現状と課題	体験活動は新型コロナウイルス感染予防対策により、一部再開しているが、引き続き中止しているものもある。社会人権教育を充実させ、少子化、核家族化、情報の氾濫等、青少年を取り巻く環境の変化に対応した取り組みを進める必要がある。 いすみ市・夷隅郡視聴覚センターを活用し、環境教育、情報・視聴覚教育の推進を図る。 公民館主催事業については、新型コロナウイルス感染拡大のため全て中止となった。コロナ禍の下での公民館主催事業の開催について、どう対応すべきかが課題となった。ライフサイクルの変化や学習機会の多様化、また急速に進む高齢化等に伴い、公民館でサークル活動等に参加する方が減少しているため、文化活動の衰退が懸念される。主催事業の内容によって参加者数に偏りがあり、市民のニーズに合った事業の企画や講師を選定することが難しい。 近年の若者の読書離れが指摘されているなか、子どもの時期から本を読む習慣、本を通じて物事を調べる習慣を確立するため、ヤングアダルト向けコーナーの設置、子ども図書室でのボランティアによる読み聞かせやブックスタート事業、セカンドブックスタート事業計画による絵本の贈呈を実施し読書活動を推進している。図書室機能の整備・拡充としてレファレンスサービスの提供、図書室資料充実やインターネット利用による調べ学習、研究等の支援を行う体制づくりが必要である。 岬公民館改修工事契約に向けた業者選定契約を行い、令和3年7月～令和4年7月に改修を実施する。
求める成果	体験活動の内容を精査し、就学前幼児・園児の社会性・自主性・協調性等を養わせ、生きる力を育む。 人権教育の充実を図ると共に、社会性や自立性を育む取り組みを実施し、社会人としての自覚を養う。 各種主催事業については、幅広い分野からの講師の選択に努め、また時代に即した知識や新しい情報等をより身近に取り入れることのできる学習機会を提供する。多様化するニーズの中で、より多くの市民が生涯学習活動に参加できるよう、充実した学習情報及び自主的な学習グループの活動の場を提供する。また団体における仲間づくりの場となるよう適切な運営を行う。市民の生涯に渡る学習活動を支援するため、自主的な学習や発表の場を提供する施設として、利用者の利便性や安全性を第一に、適切な施設の管理運営を図る。 図書室は市民生活を支援する身近な社会教育施設であることから、利用者の多様化するニーズを的確に把握し、資料を情報提供するとともに、特に若者の活字離れが危惧されるなか、より一層の魅力ある資料の充実が求められるので、的確なニーズの把握に努め、リクエストのあった資料は、購入若しくは他の図書室からの相互貸借等により迅速に対応し利用者へのサービスの充実を図る。また、子ども読書活動推進に向けて児童書の整備充実に努める。また、図書館設置に向け、さらに協議・検討を重ねる。

主な取組	二十歳のつどいの開催	R5.1.8 岬ふれあい会館で開催 (R4.4.1から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられた。それに伴い、これまで成人式としていた名称を「二十歳のつどい」に変更し、引き続き20歳を対象に開催した)
	社会人権教育推進	社会人権教育地区別研修会【県事業】 各教育機関・社会教育関係団体等に人権啓発視聴覚教材の貸出(年間)
	いすみ市・夷隅郡視聴覚センター事業	視聴覚教材・機器の整備・充実(年間)
	公民館主催事業	夷隅・大原・岬公民館 各種事業
	公民館図書室	読書活動の普及及び定着化を図るため、県立図書館との連携を図る。情報システムと書誌検索データベース機能を有効に活用して、市民の利便性を高める。 (年間)
	いすみ市子どもの読書活動推進	「セカンドブック事業」実施
	岬公民館改修工事	R3.7改修工事着工、R4.5.31改修工事竣工 R4.8.1リニューアルオープン

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	コロナ禍により各種事業や、体験活動、特に公民館主催事業が、全て中止となってしまったのは、残念だった。 図書館利用について、閲覧・貸出が制限されたのも、止むを得なかった。岬公民館の改修オープンは今後の利用拡大に大いに繋がると思われる。 「二十歳のつどい」を岬ふれあい会館で開催できたことは、評価できる。 3～5歳児対象とした「セカンドブック事業」に取り組めたことは高く評価できる。
今後の方向性	コロナの影響による活動自粛から、よりよい事業内容等精査し多様化するニーズへの対応に努めたい。今の健康増進を求める傾向に対応していただきたい。 岬公民館改修後、美しく整備された1階の図書館の充実ぶりに感謝している。各小中学校の図書室の充実化と連携し、さらに努力していただきたい。 図書館利用については、「いすみ市子ども読書活動推進計画」に基づき、事業を展開して欲しい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅲ うるおいと生きがいのある地域づくりの推進	担当課	生涯学習課
	3 家庭・地域の教育力向上と活用	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・家庭教育・子育て支援の充実 子どもの人格形成の基盤となる家庭の教育力向上をめざす。そのために、家庭の在り方、親の役割、子どもの発達の特徴の理解、基本的な生活習慣やしつけ等に関する学習機会を提供し、家庭教育の充実を図る。 乳幼児の保護者を対象に、子どものしつけ・子育てについての学級を開催し、家庭教育の充実を図る。また、望ましい生活習慣の形成や食育について学習の機会を提供すると共に、親子のふれあいを推奨する。 身近な地域の昔からの文化や伝統的な技術を子どもに伝承するとともに、学校(子ども)と地域(高齢者)とのふれあいの場とする。また、高齢者の生きがいの場、地域教育力の向上に資する。(高齢者ふれあい学級) 地域のボランティアの協力を得て、親子、家族、地域の人との自然体験活動や運動遊び等を通して、親子・子育て仲間のふれあい交流を深める。 ・社会教育関係団体の育成と支援 社会教育関係団体との連携、指導・支援を推進する。(公民館活動との連携) ・青少年相談員連絡協議会事業 スポーツ活動や夏休み期間中におけるパトロール活動等を通して、青少年の健全育成を図る。 ・子ども会育成会連絡協議会事業 望ましい子ども会の在り方について協議し、その成果を単位子ども会の活動に役立てる。 ・生涯学習ボランティア人材バンク・学校支援ボランティアの充実 生涯学習ボランティア人材バンクの登録・活用を、ボランティア連絡協議会等との連携により充実させる。併せて、読み聞かせボランティアなどの保育所・学校支援活動を推進する。	
現状と課題	家庭教育指導員・社会教育指導員を配置し、例年、学校とボランティア、学校と講師を結び、家庭教育学級、子育て学級・高齢者ふれあい学級・いすみ子育てジャンボリーを円滑に実施していた。ここ2年は、コロナ禍において事業が中止となったが、感染対策を強化し開催できるよう取り組む。 社会教育団体と公民館が連携して開催する文化祭が中止となった。 生涯学習ボランティア人材バンクの登録を活用し、保育所・学校支援活動を推進してきた。その成果により保育所・学校が地域ボランティアと協力する体制ができつつある。	
求める成果	豊かな人間関係を育む学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を図る。また、課題解決に向け、家庭教育指導員・社会教育指導員が中心となる仕組みづくりをより一層進め、家庭教育・子育て支援の充実を図る。	
主な取組	家庭教育学級	8小学校 実施、1小学校 中止、 3中学校 実施
	子育て学級	10保育所園 実施、1保育園 中止
	高齢者ふれあい学級	3小学校 実施、6小学校 中止、3中学校 中止
	いすみ子育てジャンボリー	年2回(7月、10月) 実施
	文化祭	3公民館 中止
	生涯学習ボランティア人材バンク登録	登録者 68名(令和5年3月31日現在)

【令和4年度の実績に関する外部評価】

取組の評価	家庭教育学級、子育て学級、高齢者ふれあい学級、文化祭等々、各種事業の一部が中止になってしまったことは、残念であった。 しかし、8小学校・3中学校での家庭教育学級、10保育園での子育て学級、3小学校での高齢者ふれあい学級、そして、年2回の子育てジャンボリーが実施できたことは、大きな成果と考える。 関係者の御努力に感謝したい。 家庭地域関係団体の定期的な状況把握の必要性は感じた。
今後の方向性	家庭教育学級、子育て学級等で、密にならず、感染拡大することのない活動・事業を、小中学生・保護者等、多くの市民が強く望んでいる。ぜひとも頑張っていたきたい。 今後活動が平常に戻れたら、今年度の関係者の声を反映させた取り組みや、リモート等の開催活用を考慮に入れたい。事業が中止されていても、その間定期的に家庭地域関係団体との連絡を密にしていきたいと思います

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅲ うるおいと生きがいのある地域づくりの推進	担当課	生涯学習課	
	4 生涯スポーツの振興と健康づくりの推進	成果・評価	ほぼ達成	

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・健康づくり・スポーツ・レクリエーション事業の推進 スポーツ振興を図るため、スポーツ推進委員を活用したスポーツ実技指導研修会などを実施し、指導者の育成を図ると共に、各種スポーツ大会を開催する。 市民の健康と体力向上並びに健全な精神を養うため、海洋性スポーツをはじめ、幼児を対象としたリズム体操教室やスポーツ大会を開催する。 ・スポーツ団体の育成と支援、学校体育施設開放事業の促進 体育協会による市民体育大会や主催行事の開催、広報紙の作成等を支援し、市民スポーツの普及・振興を図る。 市内小・中学校体育施設及び社会体育施設を地域登録スポーツ団体に開放する。 ・運動施設の利用促進 運動施設(社会体育施設)の維持管理に努め、利用しやすい環境と施設の整備を図る。 ・いすみ健康マラソン(増田明美杯)大会の実施 全国から訪れる大会参加者を温かく迎え、市内を舞台に繰り広げられる様々な交流を通して市民と参加者の親睦・融和を図ると共に、元気な「いすみ市」を全国にアピールする
現状と課題	スポーツ振興については、教育委員会・スポーツ推進委員、体育協会とが連携を図りながら取り組んでいるが、少子高齢化などによりスポーツ団体・大会参加者の減少が進んでいる。 学校体育施設事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用制限等を行ったが、再開に向けた市独自による学校開放方針が必要である。 運動施設の利用促進については、施設維持管理に努め利用しやすい環境を整える。 いすみ健康マラソンについては、令和3年度は中止となったが、今後の開催時は参加者が全国から訪れるため、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しなければならない。
求める成果	健康づくり・スポーツ・レクリエーションを通して市民の健康づくり体力づくりを推進すると共に、スポーツを活用した地域づくりを推進する。 社会体育施設、学校体育施設は、市民スポーツの活動に利用されることから良好な環境維持に努める。 いすみ健康マラソン大会は、市民をはじめ、参加者の健康増進と体力向上並びに青少年の健全育成を図ると共に、スポーツイベントを通して、観光の振興及び地域の活性化を図る。

【施策の概要(令和4年度当初)】

主な取組	スポーツ推進委員協議会事業	ユニホッケー教室・大会 開催 / 夷隅地区スポーツ指導者講習会 中止 高齢者グラウンドゴルフ大会 開催 / 親子水泳教室 一部開催(3日中1日中止) / 親子でサッカー教室 中止
	B & G海洋センター事業	Jr.サーフィンスクール 7/16開催 太東海水浴場 / 夏休みカヌー教室 中止 / キッズネイチャーLovers中止 / 夷隅川探検SUPクルーズ中止 / B & Gバレーボール大会 中止
	ふるさとウォーキング	いすみふるさとウォーキングⅠ 中止 いすみふるさとウォーキングⅡ 大原地区
	学校体育施設開放	市内小・中学校体育施設及び社会体育施設を地域登録スポーツ団体に開放する。令和4年度 登録団体数 49団体
	体育協会活動	市民スポーツの普及・振興に関する様々な活動を展開する。 加盟団体主管による市民体育大会や体育協会主催行事の開催。 第15回いすみ市民体育大会 11競技開催 / 7競技中止 体育協会主催事業 中止 体育協会だより 3/1発行
	運動施設の活用促進	運動施設(社会体育施設)の利用しやすい環境と施設の整備を実施(管理:各公民館) ・年間を通した施設の維持管理 ・農林課、建設課所有施設との連携(農村環境改善センター・釈迦谷運動公園グラウンド)
	いすみ健康マラソン (増田明美杯)	第15回いすみ健康マラソン大会(増田明美杯) 12月3日(土)小学生1.5km・2km、中学生3km、ファミリー1km 12月4日(日)一般5km・10km・ハーフマラソン・ウォーキング5km ※参加申込者数 12/3:774人 12/4:2,634人 合計:3,408人

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	新型コロナウイルス感染症拡大のため各種事業の中止を余儀なくされた。しかし、コロナ禍であっても感染予防対策をしっかりと行い、昨年より多く開催することができたことは大いに評価できる。 特に「いすみ健康マラソン(増田明美杯)」が規模縮小、会場配置を広くとるなど感染予防対策を万全にした上で、3年ぶりに開催できたことは非常に有意義であった。 当日は、会場内で参加者から、「参加できてとても良かった」の声を聞くことができた。
今後の方向性	新しい生活様式に対応可能な、ウォーキングや軽スポーツ等々、止むを得ずスポーツに縁遠くなってしまった人々が、もう一度活動できる機会をぜひとも作っていただきたい。 今後も、他の課や組織等とも連携しながら、様々なスポーツイベントを活用した健康づくりの推進方法について模索し、その啓発に努めたい。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅲ うるおいと生きがいのある地域づくりの推進	担当課	生涯学習課
	5 文化・芸術活動の充実	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・文化団体の育成と支援 各公民館に文化団体として登録してもらおうと共に、文化祭を開催し、発表の場を提供する。 童謡や様々なジャンルのコーラスなどを通して情操豊かな児童・生徒を育成すると共に郷土愛を育て、親子でふれあう時間の大切さを養う。 ・文化事業の推進 一流の文化芸術団体による実演芸術の公演を行い、次代を担う子どもたちに質の高い文化芸術に触れさせる。その経験から、豊かな想像力、思考力やコミュニケーション能力などを養う。 ・郷土資料館事業の充実 郷土資料館運営協議会開催、収蔵資料の保管・展示及び企画展、歴史教室を開催する。		
現状と課題	文化団体の高齢化が進んでおり、活動団体の減少が懸念される。 親子間や地域間の交流を図りながら、音楽を通じて子ども達の豊かな情操を育むことを目的に事業を実施しているが、ジュニアコーラスなどに参加する子どもが減少している。 質の高い文化芸術団体を招いて講演を行っているが、同じ団体の公演となっており、新しい分野の提供が必要となる。		
求める成果	優れた文化芸術を見る、聞く、また、参加することで、市民に芸術文化の鑑賞の機会を提供する。		
主な取組	文化団体の育成と支援	登録文化団体 夷隅公民館 26団体、大原公民館 52団体、岬公民館 47団体 各公民館文化祭 中止 ジュニアコーラス 6月から2月まで実施 子ども芸能祭 2/26開催	
	文化事業の推進	いすみ市音楽祭 8/7開催 ふれあいコンサート 10/16開催 芸術鑑賞事業「松山バレエ団公演」 6/6開催 短歌大会 2/19開催	
	郷土資料館事業の充実	郷土資料館運営協議会 1回 企画展示(4回) 大筒と陣羽織—資料で見る東上総の海防と小金原鹿狩 房総の縄文土器 市内に残る絵馬・絵図展 静遥パステル風景画展 歴史教室 中止 シンポジウム「上総広常とその時代—中世の東上総をさぐる—」11/13開催	

【令和4年度の取組に関する外部評価】

取組の評価	昨年度以上に文化・芸術活動に触れる機会を設けることができたことは、高く評価できる。児童生徒の発表の場や芸術鑑賞事業の開催が実現したことは何よりであった。 約350人の参加者を迎え、シンポジウム「上総広常とその時代—中世の東上総をさぐる—」を1市2町(いすみ市、一宮町、睦沢町)合同で開催し、3名の講師それぞれの視点で講演や熱い討論が行われたことは、大きな成果である。
今後の方向性	新しい生活様式の中でも、文化・芸術活動にふれる機会を推進し、情操豊かな子供たちを育成するため、音楽祭やコンサートの充実を図っていただきたい。特に、コーラス等の活動は、非常に厳しいここ数年間であった。それだけに、今後の取組こそ期待大となっている。時代が大きく変化してきている中、文化芸術にふれる機会を模索していくことは大変重要なことである。 郷土資料館の優れた資料や地域に残る貴重な物を展示する企画展を開催し、親しみのある郷土資料館づくりと鑑賞の機会の提供に努めていただきたい。 以前のように、積極的な表現・芸術活動ができることを、小中学生を含め、多くの市民が願っている。

令和4年度教育施策 点検・評価シート

いすみ市 教育重点 施策の体系	Ⅲ うるおいと生きがいのある地域づくりの推進	担当課	生涯学習課
	6 文化財の保護・活用の推進	成果・評価	ほぼ達成

【施策の概要(令和4年度当初)】

施策内容	・文化遺産の保護と活用 伝承団体に補助金を交付し、無形民俗文化財の保護・伝承・育成を図る。 ・歴史・文化財の保存と情報の提供 郷土資料館で、歴史・文化財の保存に努めると共に、常時展示の充実を図る。「レッツトライ」・「広報いすみ」を活用し、文化財情報を定期的に紹介する。 ・国指定天然記念物の保護増殖事業 ミヤコタナゴ発生地の環境整備活動を地元住民等と協力して実施する。種の保存のため、人工増殖を実施する。 太東海浜植物群落地の環境整備を実施する。
現状と課題	お囃子など市内無形民俗文化の保護・伝承を支援しているが、演者や伝承者の高齢化、受け継ぐ子どもたちや成年の減少が問題となっている団体がある。 国指定天然記念物のミヤコタナゴ生息地、太東海浜植物群落地の環境整備を実施している。しかし、環境の悪化に伴い、引き続き天然記念物保護に対する意識の高揚を図っていく必要がある。
求める成果	無形民俗文化財への理解と愛着を深め、保護・伝承・育成を図る。 文化財の保護・保存を図ると共に、郷土資料館の展示・広報紙の発行等により文化財に対する理解を深め、郷土愛の育成に努める。 種の保存を図るため、地元住民と協力し環境整備を実施していく。

【令和4年度の取組に関する外部評価】

主な取組	文化遺産の保護と活用	伝承団体に補助金を交付し、無形民俗文化財の保護・伝承・育成 ミヤコタナゴ生息地環境整備(神置川、須賀谷川、荻原川) ミヤコタナゴ保護増殖委員会 年1回書面開催 委員9名
	歴史・文化財情報の提供	「文化財マップ」の作成 「レッツトライ」・「広報いすみ」を活用した文化財情報提供 郷土資料館での企画展示 4回、来館者:3826人
取組の評価	伝承団体に補助金を交付し、無形民俗文化財の保護等を行うことができたことは、評価できる。 小中学校において、地域の無形民俗文化の保護伝承に関するクラブ活動の実施については評価できる。文化財に関する各種広報誌での情報提供は、評価できる。 郷土資料館での具体的な展示物の提示、「レッツトライ」等を活用した文化財情報提供は、本市における文化財に対する理解を深める貴重な機会となっている。 ミヤコタナゴの保護や太東海浜植物群落地に対する、理解啓発と環境整備は大変重要であり、評価できる。	
今後の方向性	伝承団体への補助金交付、無形民俗文化財の保護等を行うことは、今後も推進し、併せて市民への情報提供にも努めたい。 市民等に対する、市内の天然記念物の周知を工夫していただきたい。郷土資料館での具体的な展示物の提示、「レッツトライ」等を活用した文化財情報提供は、本市の文化財に対する理解を深める貴重な機会となっている。市内外への発信を、より強化していただきたい。 さらに今後、これ以外の様々な形式の「広報活動」にもチャレンジし、更なる工夫改善をお願いしたい。	

《参考》

教育委員会会議等

1 いすみ市教育委員会委員名簿

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

職 名	氏 名
教育長	赤 羽 良 明
教育長職務代理人	押 塚 尚
委 員	黒 川 薫
委 員	亀 地 道 雄
委 員	今 関 由 紀

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、年 12 回毎月開催される「定例会」及び臨時的に開催される「臨時会」があり、令和4年度は合計で 12 回開催しました。

(1) 教育委員会定例会・・・12 回

(2) 教育委員会臨時会・・・0 回

3 教育委員会会議での審議状況

令和4年度は合計で 28 件について審議しました。

(議案審議の他、臨時代理報告 4 件、報告事項 40 件を取扱いました。)

令和4年度教育委員会審議案件等一覧

(1) 令和4年度教育委員会会議 審議案件

議案番号	件 名	提出日
1	令和4年度教育委員会所管に係る5月臨時補正予算案について	5月26日
2	令和4年度教育委員会所管に係る6月補正予算案について	5月26日
3	令和4年度教科用図書夷隅採択地区協議会規約について	5月26日

議案番号	件 名	提出日
4	いすみ市学校給食費補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について	5 月 26 日
5	令和 5 年度使用教科用図書の採択について	7 月 15 日
6	令和 4 年度教育委員会所管に係る 9 月補正予算案について	8 月 19 日
7	いすみ市学校給食費補助金交付要綱の一部を改正する告示の一部を改正する告示の制定について	8 月 19 日
8	教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の結果報告【令和 3 年度実績】について	9 月 22 日
9	いすみ市指定文化財の指定解除について	9 月 22 日
10	いすみ市文化財審議会への諮問について	9 月 22 日
11	いすみ市招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について	12 月 23 日
12	いすみ市使用料条例の一部を改正する条例の制定について	12 月 23 日
13	令和 4 年度教育委員会所管に係る 12 月補正予算案について	12 月 23 日
14	令和 4 年度教育委員会所管に係る 3 月補正予算案について	2 月 24 日
15	令和 5 年度教育委員会所管に係る当初予算案について	2 月 24 日
16	重要な公の施設の長期かつ独占的な利用について	2 月 24 日
17	令和 4 年度末一般教職員及び管理職の異動内示について	3 月 17 日
18	令和 5 年度いすみ市教育委員会教育施策について	3 月 17 日

議案番号	件 名	提出日
19	いすみ市英語検定料補助金交付要綱の制定について	3月17日
20	いすみ市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について	3月17日
21	いすみ市立小学校及び中学校管理規則の一部を改正する規則について	3月17日
22	いすみ市通学用ヘルメット購入補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について	3月17日
23	いすみ市小中学校教材費補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について	3月17日
24	いすみ市就学援助に関する規則の一部を改正する規則の制定について	3月17日
25	学校医の委嘱について	3月17日
26	学校医の委嘱について	3月17日
27	いすみ市指定文化財の制定について	3月17日
28	いすみ市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について	3月17日

(2) 令和4年度教育委員会議 臨時代理報告

報告番号	件 名	報告日
1	職員の任免について	4月15日
2	いすみ市学校歯科医の委嘱について	4月15日
3	いすみ市学校歯科医の委嘱について	4月15日
4	いすみ市学校薬剤師の委嘱について	4月15日

標記事業に係る担当部署の点検及び評価結果を参考に事業の状況を見させていただいた結果、個別の評価結果を報告書に記載するとともに、主な評価について下記のとおり意見を述べます。

記

- ・事業全般については、各分野とも基本的な事業の確実な実施が成されており、評価した16項目において『ほぼ達成』と評価した。
- ・学校経営に関し、教職員の時間外勤務の削減が見られたことを評価する。能力開発については、ICT活用を含めて能力向上を図っていただきたい。導入された校務支援システムについては、教職員が効果を享受し、業務の効率化を図るようお願いしたい。
- ・3年ぶりのたけのこ塾の実施は評価できる。学習指導の改善については、市指導主事の学校定期訪問を継続し、教員の指導力向上に努めていただきたい。また、情報端末の効果的活用のために、デジタル教科書などの条件整備を積極的に進めていただきたい。
- ・グローバル化・情報化に対応した取組について、夏のイングリッシュキャンプは内容も良く、限られた条件の中で実施できたことを評価する。引き続き効果的な企画を定期的に実施してほしい。情報化については、情報教育研究重点校2校の成果を広め、家庭での活用も含めたICT教育を推進していただきたい。
- ・生徒指導については、「ケース会議」を活用し、家庭への適切な支援を迅速に行ったこと、夷隅特別支援学校との連携及び中学校の制服に選択制を取り入れたことなど評価できる。情報モラル教育については、引き続き強化をお願いしたい。
- ・スクールバスを利用した外部施設での水泳学習は評価している。老朽化した施設や遊具の点検や修繕等は速やかに行い、児童生徒の安全確保に努めていただきたい。
- ・コロナ禍により、公民館主催事業が中止や制限となったのは残念だったが、感染予防対策を行いシンポジウム等や二十歳のつどいを開催できたことは評価できる。改修しオープンした岬公民館や郷土資料館が親しみのある施設になるよう努めていただきたい。
- ・学校教育全体では、低所得家庭への援助や支援、たけのこ塾やICT支援など児童生徒の学力向上のための指導体制の充実及び学校施設整備の充実を図り、いすみ市の教育目標である「地域に根ざし信頼される学校教育の推進」を積極的に進めていただきたい。
- ・生涯学習全体では、新しい生活様式に対応した、市民の生きがいとなる文化・学習活動、スポーツ・レクリエーション活動など生涯学習環境の充実に向けた施策を引き続き推進されたい。

令和5年8月17日

外部評価員	鈴木郁夫
同上	福田和美

いすみ市の教育の振興に関する大綱



いすみ市の未来を担う子どもたちが、健やかに成長し、明るい希望を持ち、有意義な人生を送れるよう願いを込め、次に掲げる「いすみ市教育の基本方針～いすみっ子の未来のために～」を「いすみ市の教育の振興に関する大綱」として定めます。

平成28年9月

いすみ市長 太田 洋

いすみ市教育の基本方針

～いすみっ子の未来のために～

○ 輝く「いすみっ子」を育む教育の推進

いすみ市の子どもたちが夢や希望を抱き、その実現のために努力し、個性や能力を伸ばしていけるよう、教育環境を整備して、“輝く「いすみっ子」”を育む教育を推進します。

○ 生きる力を育む学校教育の充実

社会の変化に対応できる「確かな学力」、いのちを尊重し、他人を思いやることのできる「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康と体力」を育みます。これらを、子どもたちがバランスよく身に付けられるよう、学校教育の充実に努めます。

○ いすみ市に誇りを持ち、グローバル社会に対応できる人材の育成

郷土いすみ市の自然、歴史、文化などを学ぶ機会を充実させ、いすみ市を誇りに思う心を育みます。あわせて、日本の歴史や文化を理解したうえで、異文化も尊重できる国際的な感覚を身に付けた、グローバル社会に対応できる人材を育成します。

○ 「いすみっ子」を支援する地域コミュニティ形成の推進

子どもたちの健やかな成長を支援するため、学校、家庭、地域が相互に連携できるよう働きかけ、学校や社会教育施設を核とした地域コミュニティの形成を推進します。

○ 信頼される教員の育成

指導力の向上を目的とした実践的な研修を充実させることにより、教育者としての使命感と子どもたちへの深い愛情を持ち、保護者や地域から信頼される教員の育成に努めます。

○ 家庭教育への支援

教育の原点である家庭教育への支援を進めるため、親の学びの機会を提供します。

また、基本的な生活習慣や人として大切なことがらについて、各家庭で教育できるよう働きかけていきます。

令和5年度 教育重点施策

いすみ市教育委員会



「創造性に富み、様々な変化に主体的に対応する、個性豊かな人間の育成」をめざし、児童生徒の学習環境の改善・充実や市民が生涯にわたってスポーツ、文化・芸術活動を行うことができる生涯学習社会の構築を基本理念とし、教育目標を次のように定める。



- 1 地域に根ざし信頼される学校教育の推進
 - (1) 確かな学力を育む
 - (2) 豊かな心を育む
 - (3) 健やかな体を育む
 - (4) 「地域とともに歩む学校づくり」を進める
- 2 うるおいと生きがいのある地域づくりの推進
 - (1) 生涯学習の機会や場を充実させる
 - (2) 学校・家庭・地域の連携・協働を推進する
 - (3) 生涯スポーツの振興と健康づくりを推進する
 - (4) 文化・芸術活動の充実と文化財の保護・活用を図る



重 点 施 策

きめ細かな指導と
教育機会や教育システムの多様化の推進

教職員としての資質・能力の向上と
教育条件の整備と充実

うるおいと生きがいのある
地域づくりの推進

文化財の保護・活用の推進	・郷土の歴史や文化財を活用した学校教育との連携
文化・芸術活動の充実	・文化団体の活動支援 ・質の高い文化芸術にふれあう機会の提供 ・郷土伝統工芸・芸能・文化(音楽)活動の活性化
生涯スポーツの振興と健康づくりの推進	・社会体育施設の整備 ・学校体育施設の有効活用 ・スポーツを通じた自己健康管理意識の育成
家庭・地域の教育力向上と活用	・家庭教育字級・子育て字級・高齢者ふれあい字級の充実 ・地域社会の人材等を活用した教育活動の推進 ・中学校部活動の地域移行の推進(休日)
生涯学習機会の充実	・各種事業と学校教育との連携・協力の推進 ・社会教育施設の整備 ・子ども読書活動推進計画に伴う事業の推進
生涯学習推進体制の整備・充実	・新しい生活スタイルに合わせた生涯学習体制の創出
施設設備の充実と教育条件の整備	・学校施設・設備の適切な維持管理及び計画的な改修等による安心・安全・快適な環境の整備
教職員の適正配置と資質・能力の向上 教職員研修の充実 教職員の健康管理と福利厚生者の充実	・人事評価の活用・モラールアップ委員会の充実 ・市教委主催研修の充実 ・若手教員育成研修の充実(出前あすなろ塾) ・定期健康診断の受診対象者の拡大
特別支援教育の推進	・合理的配慮の提供(教育的ニーズに応じて) ・インクルーシブ教育システムの推進 ・特別支援教室支援員の配置 ・福祉・医療連携による就学相談
生徒指導・教育相談の充実と人権・平和教育の推進	・いじめ等問題行動や不登校への組織的な生徒指導体制の構築(いすみほっとスクール) ・心のバリアフリー教育の推進(補助事業) ・スクールカウンセラーの活用促進(各小中学校) ・虐待・ヤングケアラーへの組織的対応 ・平和学習活動の推進(広島平和記念式典派遣)
健康・安全・防災教育の推進	・食育の推進(地域食材の活用・農業体験) ・学校体育活動の充実(主体性のある健康で豊かなスポーツライフ実現の資質能力の育成) ・望ましい生活習慣の形成(学校保健委員会) ・防災意識の浸透(防災カルタ)
グローバル化・情報化に対応した教育の推進	・授業の質の向上 (小中連携による学びの接続・外国語指導員派遣) ・一人一台端末等のICTを活用した情報活用能力の育成(情報教育研究重点校 岬中・支援員派遣) ・デジタル教科書や大型提示装置の活用 ・中学生海外交流の推進 ・市A・I・S名を活用した英語教育の充実 ・市英語検定料補助金の活用促進
豊かな心を育む 道徳教育の充実	・「考え・議論する道徳」の指導・評価の工夫改善 ・「道徳科」の充実(映像教材の活用) ・生活体験・社会体験活動の充実
学習指導の改善と質的向上	・「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・指導目標の明確化と指導方法の工夫改善 (外国語教育研究重点校 夷隅小) ・全国学調の分析と実践モデルプログラムの活用 ・家庭学習の習慣化 (学習者ポータル・オンラインの活用)
「社会に関わられた教育課程」の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの確立	・質的向上を図るカリキュラム・マネジメントの確立 ・新しい時代に必要となる資質・能力を明確にした教育課程の編成
学校経営基盤の確立	・組織マネジメントを基にした機動力のある組織づくり ・教職員の資質能力の開発・向上と活力ある教育活動 ・業務の見直し及び効率化の促進(業務支援システム)

チーム学校